

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

理学療法士科Ⅱ部	学年	4	開講区分	後期	担当教員 田中 信一、他			
授業科目名 基礎医学総合演習	必修/ 選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	90 (6)	授業回数	45

〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)
 人間の運動機能の基礎となる解剖学、生理学、運動学について臨床現場でリハビリテーションに携わっている教員が授業を行なう。
 これまでの学習や実習を振り返りながら、臨床と基礎医学系科目を関連付けながら必要となる科目を再度復習する。

〔到達目標〕
 これまでに学習した知識や実習での学びを振り返りつつ、臨床で必要になる知識を理解し他者に説明することができる。

〔使用教材、参考文献等〕
 プリント中心 各自参考書を持参すること。

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション 骨・関節・靭帯	骨・関節・靭帯について問題演習を交えながら復習を行う。
2	骨・関節・靭帯	骨・関節・靭帯について問題演習を交えながら復習を行う。
3	骨・関節・靭帯 GW	グループで学びあいながら復習できる
4	筋①	筋の解剖生理について問題演習を交えながら復習を行う。
5	筋②	筋の解剖生理について問題演習を交えながら復習を行う。
6	筋 GW	グループで学びあいながら復習できる
7	運動学の復習 上肢①	上肢の運動学について問題演習を交えながら復習を行う。
8	運動学の復習 上肢②	上肢の運動学について問題演習を交えながら復習を行う。
9	上肢の運動学 GW	グループで学びあいながら復習できる
10	運動学の復習 下肢、顔面・体幹①	下肢、顔面・体幹の運動学について問題演習を交えながら復習を行う。
11	運動学の復習 下肢、顔面・体幹②	下肢、顔面・体幹の運動学について問題演習を交えながら復習を行う。
12	下肢、顔面・体幹の運動学 GW	グループで学びあいながら復習できる
13	運動学の復習 姿勢	姿勢について問題演習を交えながら復習を行う。
14	姿勢 GW	グループで学びあいながら復習できる
15	運動学の復習 歩行①	歩行について問題演習を交えながら復習を行う。
16	運動学の復習 歩行②	歩行について問題演習を交えながら復習を行う。
17	歩行 GW	グループで学びあいながら復習できる
18	運動学の復習 バイオメカニクス①	バイオメカニクスについて問題演習を交えながら復習を行う。
19	運動学の復習 バイオメカニクス②	バイオメカニクスについて問題演習を交えながら復習を行う。

20	バイオメカニクス GW	グループで学びあいながら復習できる
21	確認試験 解説、振り返り	テストにより効果測定を行い、習得できていない部分を把握するとともに、その理解度を深める
22	運動学の復習 運動学習	運動学習について問題演習を交えながら復習を行う。
23	運動学習 GW	グループで学びあいながら復習できる
24	神経系 基礎、脳室・脳血管	神経系(基礎、脳室・脳血管)について問題演習を交えながら復習を行う。
25	GW	グループで学びあいながら復習できる
26	神経系 中枢神経(脳・脊髄、反射)	中枢神経について問題演習を交えながら復習を行う。
27	GW	グループで学びあいながら復習できる
28	神経系 自律神経、脳神経	自律神経、脳神経について問題演習を交えながら復習を行う。
29	GW	グループで学びあいながら復習できる
30	神経系 脊髄神経	脊髄神経について問題演習を交えながら復習を行う。
31	GW	グループで学びあいながら復習できる
32	感覚と受容器	感覚と受容器について問題演習を交えながら復習を行う。
33	GW	グループで学びあいながら復習できる
34	循環系	循環系について問題演習を交えながら復習を行う。
35	呼吸系	呼吸系について問題演習を交えながら復習を行う。
36	GW	グループで学びあいながら復習できる
37	消化と吸収	消化と吸収について問題演習を交えながら復習を行う。
38	GW	グループで学びあいながら復習できる
39	泌尿器と生殖器	泌尿・生殖器について問題演習を交えながら復習を行う。
40	ホルモン	ホルモンについて問題演習を交えながら復習を行う。
41	GW	グループで学びあいながら復習できる
42	代謝	代謝について問題演習を交えながら復習を行う。
43	発生と組織	発生と組織について問題演習を交えながら復習を行う。
44	GW	グループで学びあいながら復習できる
45	期末テスト 解説、振り返り	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。		〔特記事項〕 必要な内容について予習復習を自主的に行うこと。

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

理学療法士科Ⅱ部		学年	4	開講 区分	後期	担当教員			
授業科目名						鈴木 広大、他			
臨床医学総合演習		必修/ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	60 (4)	授業 回数	30
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 各種疾患やについて臨床現場でリハビリテーションに携わっている教員が授業を行なう。これまでの学習や実習を振り返りながら、臨床と基礎医学系科目を関連付けながら必要となる科目を再度復習する。									
〔到達目標〕 これまでに学習した知識や実習での学びを振り返りつつ、臨床で必要になる知識を理解し他者に説明することができる。									
〔使用教材、参考文献等〕 プリント中心 各自参考書を持参すること。									
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)					
1	オリエンテーション 病理学①			病理学について問題演習を交えながら復習を行う。					
2	病理学②			病理学について問題演習を交えながら復習を行う。					
3	GW			グループで学びあいながら復習できる					
4	中枢神経・神経筋疾患①			中枢神経・神経筋疾患について問題演習を交えながら復習を行う。					
5	中枢神経・神経筋疾患②			中枢神経・神経筋疾患について問題演習を交えながら復習を行う。					
6	GW			グループで学びあいながら復習できる					
7	中枢神経・神経筋疾患③			中枢神経・神経筋疾患について問題演習を交えながら復習を行う。					
8	中枢神経・神経筋疾患④			中枢神経・神経筋疾患について問題演習を交えながら復習を行う。					
9	GW			グループで学びあいながら復習できる					
10	内科系疾患学①			内科系疾患について問題演習を交えながら復習を行う。					
11	内科系疾患学②			内科系疾患について問題演習を交えながら復習を行う。					
12	内科系疾患学③			内科系疾患について問題演習を交えながら復習を行う。					
13	GW			グループで学びあいながら復習できる					
14	確認試験 解説、振り返り			テストにより効果測定を行い、習得できていない部分を把握するとともに、その理解度を深める					
15	整形外科疾患①			整形外科疾患について問題演習を交えながら復習を行う。					
16	整形外科疾患②			整形外科疾患について問題演習を交えながら復習を行う。					
17	整形外科疾患③			整形外科疾患について問題演習を交えながら復習を行う。					
18	GW			グループで学びあいながら復習できる					
19	リハビリテーション医学			リハビリテーション医学について問題演習を交えながら復習を行う。					

20	GW	グループで学びあいながら復習できる
21	人間発達①	人間発達について問題演習を交えながら復習を行う。
22	人間発達②	人間発達について問題演習を交えながら復習を行う。
23	GW	グループで学びあいながら復習できる
24	臨床心理学①	臨床心理学について問題演習を交えながら復習を行う。
25	臨床心理学②	臨床心理学について問題演習を交えながら復習を行う。
26	GW	グループで学びあいながら復習できる
27	精神医学①	精神医学について問題演習を交えながら復習を行う。
28	精神医学②	精神医学について問題演習を交えながら復習を行う。
29	GW	グループで学びあいながら復習できる
30	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。		〔特記事項〕 必要な内容について予習復習を自主的に行うこと。

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅱ部		学年	4	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	60(4)	授業回数	30
理学療法評価学総合演習									
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 理学療法評価について臨床現場でリハビリテーションに携わっている教員が授業を行なう。これまでの学習や実習を振り返りながら、臨床に向けて検査測定方法だけでなく、臨床的な解釈も含めて再度復習する。 〔到達目標〕 これまでに学習した知識や実習での学びを振り返りつつ、臨床で必要になる知識を理解し他者に説明することができる。 〔使用教材、参考文献等〕 プリント中心 各自参考書を持参すること。									
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)					
1	オリエンテーション 評価概論			検査の尺度などの基礎的事項について問題演習を交えながら復習を行う。					
2	意識障害・全身状態、バイタルサイン			全身状態の検査について問題演習を交えながら復習を行う。					
3	高次脳機能検査			高次脳機能検査について問題演習を交えながら復習を行う。					
4	脳神経検査			脳神経検査について問題演習を交えながら復習を行う。					
5	GW			グループで学びあいながら復習できる					
6	形態測定(栄養・フレイル含む)			形態測定について問題演習を交えながら復習を行う。					
7	GW			グループで学びあいながら復習できる					
8	感覚検査、疼痛検査			感覚検査について問題演習を交えながら復習を行う。					
9	反射、筋緊張検査			反射、筋緊張検査について問題演習を交えながら復習を行う。					
10	GW			グループで学びあいながら復習できる					
11	関節可動域測定 上肢、頸部			関節可動域測定について問題演習を交えながら復習を行う。					
12	関節可動域測定 下肢、胸腰部			関節可動域測定について問題演習を交えながら復習を行う。					
13	GW			グループで学びあいながら復習できる					
14	筋力検査(MMT 上肢、頸部)			筋力検査について問題演習を交えながら復習を行う。					
15	筋力検査(MMT 下肢、体幹)			筋力検査について問題演習を交えながら復習を行う。					
16	GW			グループで学びあいながら復習できる					
17	確認試験 解説、振り返り			テストにより効果測定を行い、習得できていない部分を把握するとともに、その理解度を深める					
18	姿勢バランス、協調性検査			姿勢バランス、協調性検査について問題演習を交えながら復習を行う。					

19	GW	グループで学びあいながら復習できる
20	姿勢・動作分析	姿勢・動作分析について問題演習を交えながら復習を行う。
21	ADL・QOL評価	ADL・QOL評価について問題演習を交えながら復習を行う。
22	GW	グループで学びあいながら復習できる
23	疾患別評価 脳血管障害	脳血管障害の評価について問題演習を交えながら復習を行う。
24	疾患別評価 神経筋疾患	神経筋疾患の評価グループで学びあいながら復習できる
25	GW	について問題演習を交えながら復習を行う。
26	疾患別評価 脊髄損傷	脊髄損傷の評価について問題演習を交えながら復習を行う。
27	疾患別評価 運動器疾患	運動器疾患の評価について問題演習を交えながら復習を行う。
28	疾患別評価 内部障害(呼吸・循環・代謝、摂食嚥下含む)	内部障害の評価について問題演習を交えながら復習を行う。
29	GW	グループで学びあいながら復習できる
30	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。		〔特記事項〕 必要な内容について予習復習を自主的に行うこと。

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅱ部	学年	4	開講区分	後期	担当教員 佐藤 俊生、他			
授業科目名	理学療法治療学総合演習	必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	60(4)	授業回数	30

〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

理学療法介入について臨床現場でリハビリテーションに携わっている教員が授業を行なう。これまでの学習や実習を振り返りながら、臨床に向けて基礎的な手段を確認し、臨牀的な方法論も含めて再度復習する。

〔到達目標〕

これまでに学習した知識や実習での学びを振り返りつつ、臨床で必要になる知識を理解し他者に説明することができる。

〔使用教材、参考文献等〕

プリント中心 各自参考書を持参すること。

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション 運動療法①	運動療法について問題演習を交えながら復習を行う。
2	運動療法②	運動療法について問題演習を交えながら復習を行う。
3	GW	グループで学びあいながら復習できる
4	物理療法①	物理療法について問題演習を交えながら復習を行う。
5	物理療法②	物理療法について問題演習を交えながら復習を行う。
6	GW	グループで学びあいながら復習できる
7	装具①	装具について問題演習を交えながら復習を行う。
8	装具②	装具について問題演習を交えながら復習を行う。
9	GW	グループで学びあいながら復習できる
10	義肢①	義肢について問題演習を交えながら復習を行う。
11	義肢②	義肢について問題演習を交えながら復習を行う。
12	GW	グループで学びあいながら復習できる
13	ADL(車椅子、福祉用具含む)	ADLについて問題演習を交えながら復習を行う。
14	GW	グループで学びあいながら復習できる
15	確認試験 解説、振り返り	テストにより効果測定を行い、習得できていない部分を把握するとともに、その理解度を深める
16	疾患別理学療法 脳血管障害	脳血管障害の理学療法について問題演習を交えながら復習を行う。
17	疾患別理学療法 脳血管障害	脳血管障害の理学療法について問題演習を交えながら復習を行う。
18	GW	グループで学びあいながら復習できる
19	疾患別理学療法 神経筋疾患	神経筋疾患の理学療法について問題演習を交えながら復習を行う。
20	疾患別理学療法 神経筋疾患	神経筋疾患の理学療法について問題演習を交えながら復習を行う。

21	GW	グループで学びあいながら復習できる
22	疾患別理学療法 運動器疾患	運動器疾患の理学療法について問題演習を交えながら復習を行う。
23	疾患別理学療法 運動器疾患	運動器疾患の理学療法について問題演習を交えながら復習を行う。
24	GW	グループで学びあいながら復習できる
25	疾患別理学療法 小児疾患	小児疾患の理学療法について問題演習を交えながら復習を行う。
26	疾患別理学療法 小児疾患	小児疾患の理学療法について問題演習を交えながら復習を行う。
27	GW	グループで学びあいながら復習できる
28	疾患別理学療法 内部障害	内部障害の理学療法について問題演習を交えながら復習を行う。
29	GW	グループで学びあいながら復習できる
30	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める
【評価について】 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。		【特記事項】 必要な内容について予習復習を自主的に行うこと。